

令和2年度 授業評価アンケート分析

令和2年10月実施

<結果と分析>

	課題・成果等	改善策・向上策・目標等
国語	「当てはまる」・「だいたい当てはまる」という回答が90%以上を占めており、生徒の実情を鑑みて工夫した指導の成果が出たと思われる。8の質問において、去年よりも「当てはまらない」の回答数が増加しており、生徒が集中して授業に取り組めるような内容や環境を整えた、きめ細かい指導が今後も必要になると考える。	生徒が成長や達成感を実感できるよう、課題や授業内容を工夫していきたい。単元ごとの目標をわかりやすく提示し、次は何をしなければいけないのかを意識させたい。また、理解・思考を深めるために、意見交換や個別指導の時間を増やしていきたい。書く・読むの分野に偏らず、話す・聞くの分野についても網羅した指導、授業展開を考えたい。
社会	ほとんどの項目で「よく当てはまる」の割合が昨年度を大きく上回った。昨年度の改善策で挙げたICT機器を用いた授業実践の効果ができていると推察できる。	質問項目3の【授業で「わかった」「できた」と思うことがよくある。】は昨年度に比較して増加はしているものの、改めて授業への意欲向上や授業展開、定着率を高める小テスト等を行い、よりよい授業のために努力していきたい。
数学	本校の生徒は、数学の義務教育段階の学習内容の定着が不十分な生徒が多く、学び直しに力を入れている。「授業に集中できる雰囲気である。」に対する回答結果の「あまり当てはまらない」「当てはまらない」の合計が、一昨年45.9%、昨年38.5%、そして今年は7.7%と大幅に減少した。この傾向を維持したい。	平成30年度から生徒が授業に集中できない要因のひとつとして、適切な難易度の授業が出来ていないことがあるのではないかと考え、生徒の実態をより考慮するようになった。このことで、満足感や緊張感をもって授業に臨める生徒が増えたのではないかと。今後も生徒にとって「わかった」と実感できる満足感のある授業ができるよう、難易度などを生徒の実態に合わせて工夫したい。
理科	昨年と比較して授業への理解や姿勢を積極的に示している生徒が多い。反対に「当てはまらない」の回答が増えていることから、アンケートに対する真摯な回答と、「分かる」教材の工夫と展開の仕方に更なる変更が必要である。	授業の進行速度は生徒に合っており、理解の助けとするために、学習内容や単元の目標を明確にし、個々に合った対応をすすめる。また、ICT機器の使用など教材の提示など工夫を図り、実験・観察等を通して、体験的な理解で学習を深められるような教材を展開する。
英語	授業の開始時に本時の活動内容や目標を提示しているのと、生徒との対話を重視しているため、「授業の目的や授業の進捗」については評価が高い。しかし、英語での指示や説明が過多になることがあるため「教え方や集中力の持続」の項目においてやや評価が低く出ている。	毎時の授業の内容や目標をはじめに提示することで今後も生徒が目的意識を持って授業に取り組めるようにする。また、生徒の集中力の維持のために、身近な題材で言語活動を取り入れたり、適宜日本語での補足説明も入れながら、分かりやすい授業を提供していきたい。
保健体育	概ね良好な結果である。しかし、「よく当てはまる」の数で考えると、教え方は分かりやすいと回答しているが、「できた」と思うことがよくある」の項目が67.7%と最も低い数値となっている。実技科目なので、知識として理解できても体現する難しさがあるためと考えられる。今後は、体現の仕方を工夫する必要があると考えられる。	練習時間の際に、全体への指示の他、個別のアドバイスを充実させる。 ICT活用して、上手な人の例を映像で見せる。また、iPadで生徒の動きを撮影し、良い点・改善点などを視覚的に提示できるようにする。グループワークを取り入れながら動きの確認をすることで自分たちで考え、解決方法を探る力を促す。
芸術	スモールステップを工夫し進捗は昨年より改善されたが、評価について周知できていない。グループワークで気が散る生徒が多い。	アンサンブルのグループワークでは集中して練習できるよう生徒の意欲を喚起し、よい演奏ができたと思えるよう工夫したい。
家庭・福祉	「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」の回答がどの項目でも9割を超えた。とくに、昨年度と比較して「よく当てはまる」と回答した生徒の数が1～2割程度増えており、生徒の実態に応じた授業展開が工夫できている成果だと考えられる。引き続きより良い授業を目指して検討していきたい。	複数の教員が教室に入る授業では、生徒の理解度や進捗を教員間で共有し、生徒の実態に応じた個別の指導にも力を注いでいきたい。また、今後も小テストや提出物等で生徒の理解を細かく把握するように努めながら、ICT機器の使用や実習などで生徒の意欲を引き出す工夫を実践していきたい。
農学	概ねの生徒が授業の各項目に一定の満足を示している。一方で、人数は少ないものの、授業に集中できる雰囲気という点について満足できていない生徒がいることは課題として検討していかなければならない。	課題としては、最優先として授業の内容をしっかりと理解できるような空気を作ることが重要である。授業空間の規律を見直し、理解力の高い生徒と、そうでない生徒の進捗に差が開かないように反応を確認して補足をを行い、全体の理解度を確かめながら進めていくことが重要であるとする。
機械	2・3の項目で「あまり当てはまらない」「当てはまらない」の比率が大きくなっている。「機械工作」の科目は、県内の機械科のなかでもどのようにして生徒に興味・関心を持たせるかテーマになる科目でもあることから、ねらいや手立てを明確にして授業展開する必要がある。また、6の項目については、2・3項目の改善を図ることで授業に集中しやすい雰囲気を構築できると考える。	「機械工作」などの座学の科目でも、本年度より本格的にICTを活用して授業を展開している。視覚的に訴えかけることで生徒に興味・関心を持たせ、理解を深める一助となっている。しかし、生徒の授業評価や基礎学力、考査点など多角的な視点から結果を分析し、アナログとデジタルのバランスを考慮したい。加えて、授業規律の徹底と教材研究の充実を図りたい。
商業	2割超の生徒が授業で「わかった」、「できた」と思うことがあるかとの質問に対し否定的な評価をしているほか、授業の雰囲気や質問に対する回答、授業速さや教え方についても1割超の生徒の評価が低い。生徒個々の学習に対する理解の程度をよく確認して、授業を展開していく必要性を感じる。	生徒がじっくり考えて学習内容を定着させることができるよう、生徒の学習状況をよく観察し、効果的な学習課題を提供していくとともに、教授方法についての研究にも力を注いでいきたい。どの科目も宿題や小テストを取り入れ、家庭学習の定着を促し、成果も出ていることから、この取り組みについても継続的にこなしていきたい。
情報	おおむねの項目で9割程度「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」と解答している生徒が多い反面、「わかった できた」や「授業の教え方」「生徒に対する対応」に関しては三分の一は「だいたい」と回答している。該当する生徒に対しさらなる理解をしてもらうため、指導方法、生徒への対応の再確認を行う必要がある。	生徒の教科書等の学習に関する理解を行うため、復習を含む学習時間の確保、実技に関する技能の習得に関する適切な課題の選択、理解の薄い子へのケア（机間巡視などを行い声がけする）など、一つ一つに対するその都度の確認に取り組んでいきたい。